

こ さい し ぶん か ざい ほ ぞんかつよう ち いきけいかく 湖西市文化財保存活用地域計画 一概要版一

令和 8 年度 (2026) ~ 令和 15 年度 (2033)

はじめに

この計画は、文化財保護法に基づき、湖西市が実施する文化財の保存・活用に関する施策の方向性と具体的な取組を示す計画です。令和5年度から、市民意識調査や文化財保護団体へのアンケートの実施、文化財保護審議会や文化財保存活用地域計画協議会での協議を通じて、多様な人々の意見をいただきながら計画を作成しました。

湖西市の歴史文化の特性

① 浜名湖と湖西連峰に育まれた暮らし

本市の人々は、古より浜名湖と湖西連峰から得られる様々な恵みに育まれながら暮らしてきました。現代においても農業や水産業、観光産業の面で浜名湖と湖西連峰は欠かせない存在です。



大知波峠廃寺跡

② 東海道の往来がもたらした文化と産業の発展

東海道がひらかれ、大勢の人々が本市を往来したことで、宿を中心に経済と文化が発展しました。明治時代の東海道本線の敷設後は鷺津駅周辺が急速に発展し、現代まで続く産業の礎が築かれました。



新居関跡

③ 湖西を襲った自然災害と復興の営み

本市は過去に幾度も大規模な自然災害に襲われ、そのたびに壊滅的な被害を受けました。一方でこれらの自然災害と、そこからの復興の営みは、その後の本市の歴史に大きな影響を与えました。



女河八幡宮特殊神事

④ 国境と新居関所が生んだ歴史文化

本市は国境と新居関所という二つの境界があり、それぞれに由来する文化財が誕生しました。現在も静岡県最西端に位置する県境の市であり、本市の人々は浜松市と豊橋市の双方と関わりながら生活しています。

⑤ モノづくりへの情熱－須恵器生産から繊維工業、機械工業へ－

本市のモノづくりは古墳時代の須恵器生産に始まり、鎌倉時代の中世陶器生産、明治時代から昭和時代の繊維工業、そして現代の自動車関連産業へと変遷しました。産業が移り変わる中で、本市の人々にモノづくりへの情熱が生まれました。

湖西市が目指す将来像、文化財の保存・活用に関する取組

文化財について湖西市が目指すべき将来像と方向性を設定し、これらに沿う取り組みを着実に実施します。

【将来像】

浜名湖と湖西連峰に育まれた文化財が次世代に続くまち

方向性	取組の例	
① 知る	埋蔵文化財詳細調査	埋蔵文化財の詳細調査(分布調査や試掘・確認調査)に取り組む。  試掘調査風景
	湖西窯跡群詳細調査	湖西窯跡群の未報告資料の再調査や報告書の作成、分布調査の実施、総括報告書の刊行に取り組み、湖西窯跡群の価値を明らかにする。  新古第2地点窯
② 守る	文化財の指定等	重要であると認められる文化財を条例に基づいて指定し、散逸や消滅を防止する。
	文化財保護団体支援	ボランティアガイドやNPO、保存会といった文化財保護団体に対して、運営に関する助言や指導、研修の開催、補助金の交付などの支援を行う。
【文化財の防災】	新居関跡防災整備事業	新居関跡の関所建物の耐震診断や耐震工事、老朽化した電気設備や消防用設備の更新を、新居関跡保存活用計画に基づき計画的に実施する。
③ 活かし、伝える	文化財イベントの開催	遺跡及び出土資料の見学会や、ウォーキングイベントなど、文化財に関するイベントの開催を通じた普及啓発を行う。  大知波峠廃寺跡の現地説明会
	出前講座の実施と情報発信強化	出前講座メニューの充実化や、出前講座の情報発信に取り組み、本市の歴史文化や文化財についての普及啓発を行う。  出前講座の様子

関連文化財群

本市らしさをあらわす5つの歴史文化の特性から、3つのストーリーを設定し、歴史文化の特性を市民に正確かつ分かりやすく伝え、文化財の一体的な保存・活用を目指します。

1. 浜名湖と共に生きる湖西の人々

浜名湖は豊かな水産資源に恵まれ、縄文時代から今日まで人々の暮らしを支えてきました。浜名湖岸の地域では漁労習俗に関する文化財が誕生し、現在まで受け継がれました。また、船囲い場跡や鷺津棧橋跡など湖上交通に関する文化財は、浜名湖が地域の交通や産業の発展に大きな影響を与えたことを伝えています。このように、はるか昔から浜名湖は人々の暮らしに欠かせない存在であり、現在も漁業や養殖業、競艇、マリンスポーツ、景勝地など様々に親しまれています。



浜名湖岸の船が並ぶ風景（新居）



入出の漁労景観

2. 江戸時代の自然災害と新居・白須賀

江戸時代の本市は幾度も大規模な自然災害に襲われました。特に太平洋沿岸部に位置する新居と白須賀は、高潮や津波により何度も壊滅的な被害を受けました。しかし、人々は災害の度に力強く復興してきました。自然災害の被害とそこからの復興の営みは、遠州灘沿岸部の遺跡や当時の人々が残した文字記録、現在まで残る宿场景観などの文化財により、現代まで伝えられています。また、災害に関する古文書は現代の防災に役立てられています。



長谷元屋敷遺跡



新居宿の景観

3. 近代の産業発展 ―モノづくりのまち湖西への歩み―

鷺津駅^{わしづえき}の設置をきっかけに、本市はモノづくりのまちへと歩み始めました。時代の移り変わりとともに製糸業から綿工業、機械工業、自動車関連産業へと主要産業の転換を繰り返しながら、現在も成長を続けています。鷺津地区^{わしづ}は、東海道本線^{とうかいどうほんせん}の敷設や戦前の繊維工業に関する文化財が複数残されています。また、かつて盛んに行われた養蚕に関する民具や石碑などの文化財が、市内の各地に伝わっています。



前田川拱渠



旧宮崎製糸鷺津工場繭倉庫



豊田佐吉邸跡

文化財の保存・活用の推進体制

文化財保護を主管する文化観光課文化係を中心に、多様な主体と連携し、事業に取り組みます。

